

# あかやま



第 **321** 号  
学校だより382号

## 今の時代に求められる力

校長 木原 和典



今年度の北高の活動も順調にスタートし、各学年それぞれに生徒の活動が本格化して、学校の中が活気づいているように感じます。新型コロナウイルスへの対策が新しい段階を迎え、学校の教育活動も以前と同じ形に戻すことができるようになってきました。北高での活動がこれまで以上に充実し、生徒の皆さんにとって大切な高校生活が素晴らしいものになるよう、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

私から生徒の皆さんには、3つのことに力を入れてもらうよう今年も話をしました。1つ目は「読む力、書く力、伝える力を養ってほしいこと」2つ目は「互いに支え合い、失敗しても大丈夫だと感じられる人間関係を築くこと」3つ目は「挨拶や言葉遣いなど社会人として期待されるふるまいを身につけること」です。これらに関して詳しいことは昨年のあかやまに書いていますので、ここで改めて述べることは控えておきます。ただ、「読む力、書く力、伝える力」については、少し新しい状況が生まれてきました。昨年末から急速に利用が拡大している「生成AI」の登場です。

ChatGPTに代表される生成AIは、人間の知的活動のあり方を根本から問い直すようなインパクトを我々に与えています。デジタル機器が広く活用されるようになって、デジタルによる膨大なデータの蓄積が進み、その蓄積データを機械的に学習することによって、これまで人間にしかできなかった文書の作成や要約、外国語の翻訳や資料の整理などを、自然な言い回しでありながら極めて短時間に行うことができってしまう技術が、突然目の前に現れました。しかしこうした時代だからこそ、人間としての基本的な力である「読む力、書く力、伝える力」の質が問われるのだと思います。

生徒の皆さんは各教科の授業で毎日様々な知識に触れています。こうした教科書に記載されている情報は、手に入れようと思えばいつでもどこでも手に入れることができますから、内容をただ暗記するだけの学習は、これからの時代を生きていくために必要な力を身につけることにはつながりません。しかもこうした情報をまとめてレポートを作成したりすることまで、AIを利用して簡単にできるのですから、ある条件下で何らかのアウトプットを得ることが目的であれば、人間の力はもはや必要ないということになるかもしれません。しかし、AIにより生成されたものを鵜呑みにすることは危険です。作成された資料は適切なものか、事実と異なることはないかなどの確認は、人間の目できちんと吟味する必要があります。そのために、教科の授業で学ぶ知識を元にした力は不可欠のものになります。

また、現実の世界で起こる「正解のない課題」に向き合い、互いに折り合いをつけながら最善の策を探っていくというようなことは、AIの技術がどう進化したとしても、人間の力でなければ実現できないのではないのでしょうか。そのようなときに必要となるものが、一人ひとりが身につけた「読む力、書く力、伝える力」であると考えています。その力をしっかりと養っておくことで、AIのような新しい技術を適切に、有効に使いこなすことができるのだと思います。

勉強はもちろんですが、学校行事や部活動などの北高での高校生活を充実させることで、これからの時代を生きていくために必要な基本的な力が養われていきます。これからも、日々の学習に部活動に全力で取り組んでくれることを期待しています。

## 新入生へのメッセージ 〔準備〕→〔本番〕→〔振り返り〕を大切に

1年学年主任 細田 大輔

1学期のEの中間試験で次のような問題を出題しました(問題の番号は変更してあります)。

- (1)日本語に合うようにカッコに適切な語を入れなさい。
- 太陽は東から昇って西に沈む。  
The sun( )in the east and( )in the west.
  - トムは兄と見た目が似ている。  
Tom( )his brother( )appearance.

1は授業で使用しているテキストと全く同じ形式で、丸暗記でも対応できる問題なので正答率は当然高くなりました。一方、2はテキストでは元々以下のような形式であり((1)~(3)は省略)、中間試験では問題の形式を大きく変更しているので正答率はかなり低くなりました。

- 下の[ ]内から動詞を1回ずつ選び、現在形にして、英文を完成しなさい。
- (4) Tom( )his brother in appearance, but not in character.  
[ resemble / contain / belong / know ]

つまり、2の問題で正解を導くには大まかに言って

- 「～に似ている」を表す英語は resemble であり、その後 -s をつけること
- 「見た目が」を表す表現は in appearance であること

を知っていなければならないこととなります。

さて、1年生の皆さんは2のようなやや応用的な問題が解けるようになるための準備をしていたでしょうか?自分で知らない単語や熟語のリストを作成するなどして、きちんと準備ができていた人は大変すばらしいと思います。勉強の仕方がよくわかっていると言えるでしょう。今後も継続をしてください。一方、皆さんの中には教員が試験範囲の中で覚えるべき単語や表現のリストを配布してくれていたらな、と考える人もいるかもしれませんが、ただ与えられた事柄を機械的に覚えるだけでは、得るものは少ないです。自分が知らないことや自分に足りないことを分析し、まとめていくという作業は手間がかかることかもしれませんが、自分の現状や能力を把握することができるので、身につくことはたくさんあります。

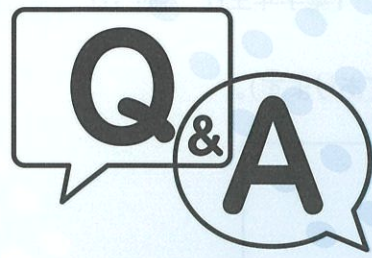
また、今回この問題が不正解であった生徒はきちんと振り返りができたでしょうか?テストで何点取れたかという結果だけを気にして、なぜ間違ったかを分析せずに同じような問題で再び失敗をするようでは、振り返りが十分だったと言わざるを得ないでしょう。テスト直しノートの提出を求められないから、見直しはする必要がない、と考えるのは改めた方がいいです。大事なのは、

### 「(十分な)準備」→「本番」→「(十分な)振り返り」

というサイクルです。これは当然英語の試験だけに大切なのではなく、他教科の試験や普段の授業でも重要です。また、勉強以外でも部活動や発表(プレゼンテーション)など様々な活動や場面においても必要とされます。これからの人生で何十回、何百回とこのサイクルが求められますが、きちんと行わないと「学び」は少なくなり、なかなか次のステップに上がっていくことができません。

高校生活では大変なこともあるとは思いますが、創意工夫を凝らして一つ一つの事柄を自分の成長のきっかけにしてください。そんな3年間を君たちに期待しています。





# 今年度から新しくなった 進路校内判定システムについて、 広報委員会より、進路部長である 富田先生に伺いました。

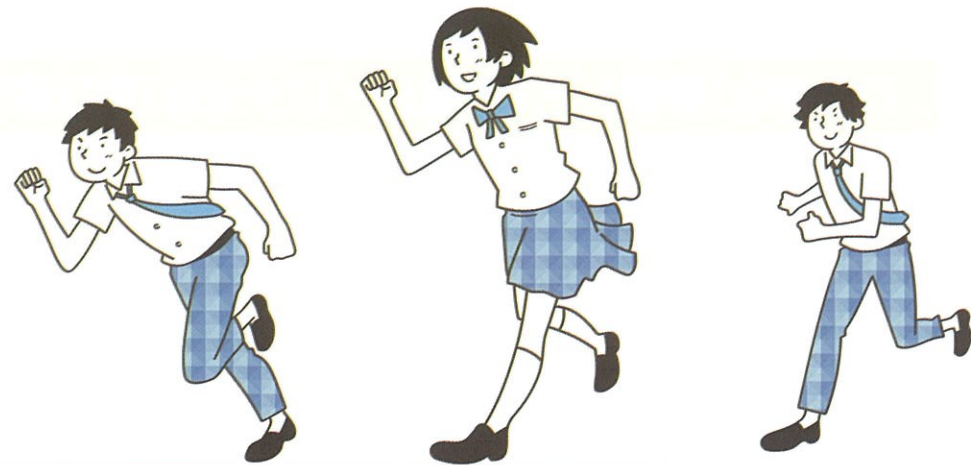
本校の進路指導の根幹が校内模試(校内実力テスト)であることは昔から変わらない事実です。が、これを志望校の判定に使うにはどうしたらよいか、を先人の方々が試行錯誤してきてこられました。記憶にある最初のシステムは、BASICで組まれたもので、校内基準値と本人の校内偏差値を用いて判定を出す形でした。プログラム自体が始めはBASICでかかれていたが次にはPASCALになり、やがてACCESSで動くようになりました。この頃から保守のこと、校内基準値のあり方に疑問を抱く者もできるようになり、ベネッセの校内管理システムを用いた校内判定を使う流れができたのですが、この校内管理システムには校内で考える中では受験人数も少ないこともあり、いびつな判定、いびつな基準値ができることがありました。

それを解消し、かつ、校内偏差値で計算した過去の膨大なデータを有効に利用するためにも、新たな進路校内判定システムを構築する必要が生じました。他校で勤務した際に、このようなシステムを外注しうまく運用できていたことから、本校でも同じようにできないかと考え、昨年度、1年かけて構築することになりました。

基本的には、ベネッセの模試で、全国偏差値と校内偏差値の対応表を作り、その表から全国偏差値を用いた判定基準の表から、校内偏差値を用いた判定基準の表を作成するものです。上で挙げたように真面目に変換しようとすると、いびつなことが起こるので、この変換に一工夫(ここは企業秘密)がしてあります。

校内偏差値には、校内模試(校内実力テスト)を作成し、その作成の中で教員の問題作成能力の向上を図るといいう目的もあります。さらに本校では過去の入試結果データを有効に使えるよう校内判定システムを構築し、校内判定を出し、生徒の皆さんに還元しています。校内判定をいまだに行う理由は、学年を問わず1つの数字(校内偏差値)で成績の伸長、合格可能性を見ることができ、が理由の1つに挙げられます。

昨年度1年かけてシステムを構築いたしました。システム自体が目的ではなく、判定自体を生徒の皆さんにうまく還元し進路希望を叶えることが最大の目的です。今後もよりよいシステムになるよう工夫をしていきたいと考えています。



## インターハイ・総文祭に参加します!

### ●● 囲碁・将棋部 ●●

7月31日と8月1日に鹿児島で行われる総文祭に出場します。今までつらいときもありましたが、沢山の人に支えられてここまで来ることができました。2年前の総文祭ではあまり勝てず、とても悔しかったので、今回の大会は前よりも勝てるように頑張ります。



### ●● 百人一首・かるた部 ●●

私たちの目標はベスト8進出です。5月に行われた選手権大会から、各々が新しい課題を見つけ、克服・改善するために日々練習を重ねています。北高、そして島根県の代表として精一杯頑張ります!応援よろしくお願いします!



### ●● 放送部 ●●

放送部はこの夏、Nコンと総文祭の二つの大会に出場します。部活に費やした青春の3年間の想いをすべて出し切って、自分史上最高の読みをしてきます。部員たちの応援を胸に抱いて頑張ります。目標はもちろん全国優勝です!



### ●● 女子ボート部 ●●

7月に北海道網走市で行われるインターハイに出場します。昨年は県総体で負けてしまい悔しい思いをしました。今年は新たなメンバーも含め7人全員で出場できることをうれしく思います。インターハイでは一つでも上の舞台を後輩に見せてあげられるよう頑張ります!



### ●● 女子登山部 ●●

8月上旬に北海道で行われるインターハイに出場します。登山競技は奥が深く、様々な技術や知識が必要です。まだまだ未熟な部分が多いため、全国のレベルに立ち向かえるよう部員全員で協力し、準備を進めていきたいと思っています。



### ●● 男子登山部 ●●

北海道で行われるインターハイに出場してきます。県総体は雨で山に登れず力を出し切ることができなかったため、今回は北海道の未知なる山を楽しみつつ力を出し切り、上位も目指して頑張ります。

